

指定される文化財の概要（※下線は用語解説あり）

名 称 木造如意輪観音坐像<康俊作/>
 （もくぞうによいりんかんのんざぞう）<こうしゅんさく>
 像底に観応二年十一月、東寺大仏師、法眼康俊作等の朱書銘がある

員数等 1 軀

所在地 姫路市書写 1 4 6 3 - 3

所有者 宗教法人 如意輪寺

法 量 像高 4 1 . 2 cm

時 代 南北朝時代・観応 2 年（1 3 5 1）

概要

書写山南麓に所在する如意輪寺に本尊として伝わる、六臂の如意輪観音像。ヒノキ材の寄木造で、表面は金泥彩を施した上、衣部には盛上げや切金による文様が表される。像底の朱書銘より観応 2 年（1 3 5 1）に円教寺僧二名がそれぞれ願主・供養導師となり、東大寺仏師法眼康俊によって製作されたことが知られる。作者康俊は「運慶五代之孫」又は「運慶六代孫」を名乗り、康誉を継いで東寺大仏師職に任じられた七条仏師である。癖が少なく瀟洒で繊細な像容に康俊の作風がよくあらわれている。本体の表面仕上げのみならず、銅製透彫の装身具、光背、台座の過半が当初である保存状態の良好さも貴重である。康俊は頂相彫刻など肖像を得意としたことが知られるが、本像は仏・菩薩像の代表作と評価される。

○如意輪寺境内彫刻 文化財指定状況

今回の指定により、如意輪寺境内の美術工芸品【彫刻】の文化財指定は、国指定 1 件、市指定 2 件の計 3 件となる予定です。

区分	名称	員数等	時代	内容
国指定	1 木造如意輪観音坐像<康俊作/>	1 軀	南北朝	今回指定
市指定	1 薬師如来坐像	1 軀	室町	
	2 聖徳太子立像	1 軀	鎌倉末室町	
	3 如意輪観音菩薩半跏像	1 軀	南北朝	今回、「木造如意輪観音坐像」として国指定になる

用語解説

六臂（ろっぴ）：六本の腕

金泥彩（きんでいさい）：金箔を膠で溶かした水溶液で彩色を施す技法

切金（きりかね）：切り取った金箔を素地（下地）に貼り付けて、繊細な模様を表現する装飾技法

頂相彫刻（ちんぞう/ちんそう/ちょうそう）（ちょうこく）：高僧等の写実的な肖像彫刻

名称 木造性空坐像（もくぞうしょうくうざぞう）
 員数等 1 軀
 所在地 姫路市書写 2 9 6 8
 所有者 宗教法人 円教寺
 法量 像高 75.6cm
 時代 平安時代

概要

等身の大きさの僧侶の肖像彫刻で、書写山円教寺境内の仙岳院で再発見された。両肩を含む頭体幹部をヒノキとみられる針葉樹の一材より彫出し、両袖先・両足部等を矧ぐ（後補）。構造技法や鎬立った衣文には平安時代前期風が認められるものの、全体に量感が抑えられた造形より10世紀末から11世紀初め頃に制作されたとみられる。長い頭部で伏し目の眼差しや少し突き出した唇といった顔立ちの特徴は、長保4年（1002）に花山法皇が巨勢広貴に描かせた伝わる性空上人の肖像画（模本のみ現存）に描かれた姿に通じており、円教寺開山・性空（910～1007）の肖像である可能性が高い。平安中期の製作になる特定の僧侶の肖像彫刻として貴重である。

○円教寺境内彫刻 文化財指定状況

今回の指定により、円教寺境内の美術工芸品【彫刻】の文化財指定は、国指定5件、県指定2件、市指定1件の計8件となる予定です。

区分	名称	員数等	時代	内容
国指定	1 木造釈迦如来及両脇侍像	3 軀	平安	
	2 木造四天王立像	4 軀	平安	
	3 木造阿弥陀如来坐像	1 軀	平安	
	4 木造性空坐像（開山堂安置）	1 軀	鎌倉	
	5 木造性空坐像	1 軀	平安	今回指定
県指定	1 木造金剛薩埵坐像	1 軀	南北朝	
	2 如意輪観音坐像	1 軀	鎌倉	
	3 性空上人坐像	1 軀	平安	今回、「木造性空坐像」として国指定になる
市指定	1 木造金剛力士像	2 軀	室町	

用語解説

仙岳院（せんがくいん）：円教寺境内にある塔頭の一つ

矧ぐ（はぐ）：製作すること。

○姫路市の国指定重要文化財（美術工芸品）【彫刻】指定状況

今回の新規指定後の状況

種別	今回指定	国指定	県指定	市指定	合計
	件数	件数	件数	件数	件数
重要文化財 (彫刻)	国2	10	10	15	35

今回の指定以前の状況

種別	国指定	県指定	市指定	合計
	件数	件数	件数	件数
重要文化財 (彫刻)	8	11	16	35



木造性空坐像

